

2021年度 自己点検・評価シート

学習センター運営委員会

基準7	学生支援
-----	------

* 各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
* 2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
<p>② ●学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか ○学生の「修学」に関する支援・学習に関する相談体制の整備</p>	<p>①現状説明 【体制】 ◆学習センターでは、専任教員10人が当番制で週1コマずつ滞在し、学習相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、対面相談とZoomを利用したWEB学習相談を学生が選択する形で実施する。 ◆学習センターでは、英語学習アドバイザーが毎日10:30～17:00まで待機しており、英語や留学に関する相談に対応している。(1日9コマ)新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、対面相談とZoomを利用したWEB学習相談を学生が選択する形で実施する。 【利用促進】 ◆相談体制についての告知を、月刊「学習センターだより」、看板、パンフレットスタンド、学生ポータルサイト、電子掲示板等で行っている。 【過年度実績】 ◆学習相談 2020年度67件、2019年度228件 ◆英語学習カウンセリング 2020年度440件、2019年度1,184件 ※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受け入構制限もあり、激減した。 ②長所・特色 ◆相談員は各教授会から1名以上出ている。 ◆相談員はオープンな自習スペースに滞在しているため、個別の研究室を訪ねることなく、気軽に相談できる。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、対面相談とZoomを利用したWEB学習相談を学生が選択する形で実施する。 ③問題点 ◆学習面の見直しの必要な学生が必ずしも自主的に学習相談を利用するわけではない。 ◆新型コロナウイルス感染症拡大を受け、学習センターの利用者が減っており、学習相談者数も減っている。</p>	<p>①2021年度以降の達成目標 学習相談のオンライン化、学習相談件数増 専任教員相談員による「学習相談」、英語学習アドバイザーによる「英語のなんでも相談」について、対面、オンラインによる学習相談を安定的に運用させる。TKUポータルや掲示等を利用して積極的に学生への呼びかけを行う。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a) 教員による学習相談について、年間100件以上。 (b) 英語学習相談について、年間600件以上。</p>	<p><①2021年度の取り組みとその成果> 新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き対面相談とZoomを利用したWEB学習相談を学生が選択する形で実施した。学習相談対応件数179件(2020年度67件)、英語学習相談対応件数785件(2020年度440件)。 長期休暇期間中の専任教員相談員による「学習相談」が増えているため、今年度より長期休暇期間中における学習相談の対応をした。英語学習アドバイザー業務について国際交流課との連携強化に取り組んだ。 ・協定校留学を希望する学生に向けた相談業務 ・国際交流チューターの育成補助 ・英語スピーチコンテスト出場者へのアドバイス ・コラボ講座の実施 <②2021年度の取り組み後の問題点(課題)> 学習相談件数 2021年度はTKUポータルでの呼びかけを1期から定期的に行い、6号館1階のデジタルサイネージで学習センターの利用を案内したところ、昨年度より、学習センターに訪れる学生数が増えた。しかし緊急事態宣言の期間もあり、コロナ禍前の利用数には戻っていない状況である。</p>	A	<p>◆「学習センター利用統計(2021年度).xlsx【月次報告】」 【資料1-1】、「学習センター利用統計(2020年度).xlsx【参考】前年度データ」 【資料1-2】 ◆「英語学習相談者リスト2021年度」、「英語学習相談者リスト2020年度」【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】 ◆「月別集計表」【大量であるため学習センター保管】</p>	<p>○引き続き改善・向上に努めてください。</p>
<p>① ●学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上</p>	<p>①現状説明 ◆毎日の自習者・なんでも相談者・学習相談者・講座参加者・見学者の数を記録し、毎月統計をまとめている。 ◆過去の参加実績等をもとに講座やイベント等を企画し、学習センター運営委員会にて検討の上、実施している。 ◆講座やイベント実施時は毎回、参加者にアンケート調査を行い、満足度や感想・要望等を確認し、その後の企画の参考にしている。 ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下でも学生が参加しやすいように、講座・イベント実施は対面、オンラインを併用し、昼食可能場所ではライブ配信している。また講座1週間後に録画版を配信(TKUポータルで案内)することで、時間や場所を問わず視聴し、繰り返し学ぶことができる体制を整えている。 ◆毎年1月頃、学習センター利用学生から「新入生へのメッセージ」として、学習センターの利用法を書いてもらい、学習センターの利用実態に関する情報を集めている。(2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により実施せず) ◆毎年3月、「学習センター全体懇談会」を開催し、学習センターの活動に関わる教職員及び英語学習アドバイザー、常連学生に参加してもらい、1年間の総括を行っている。(2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止) ◆毎年、前年度の活動実績を「学習センター活動報告」にまとめ、冊子及び電子データを学内に配付している。 ②長所・特色 ◆講座やイベントの参加者アンケートは無記名であるため、正直な意見や感想を集めやすい。 ◆日頃から多様な学生に直に接している教員運営委員や英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関する情報を得ることが可能である。 ③問題点 ◆学習センターに関心のない学生は、学習センターを利用しないため、新たな意見等を集めることが難しい。 ◆オンライン講座ではGoogleフォームを利用したアンケート機能を利用しているが、紙での提出と違い提出率が低い。</p>	<p>①2021年度以降の達成目標 (a) 講座の参加において、対面、オンライン、録画視聴回数を増やす。 (b) アンケートの満足度回答 満足(である)に対して「はい」及び「大体」の合計の割合を一定以上に保つ。 (c) 学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等から、学習支援のニーズを探る。 ②達成度を測るための客観的な指標 (a) 講座参加者5000件以上。(2020年度講座参加者 録画講座再生回数含む5526件、2019年度1306名) (b) 講座アンケート満足度回答 満足(である)に対して「はい」及び「大体」の合計平均90%以上。 (c) 学習センターの活動に関わる教職員や利用学生の意見等をもとに、学習支援の改善を実施する。</p>	<p><①2021年度の取り組みとその成果> ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2021年度のランチタイム講座は学生が参加しやすいように、対面、食事可能教室でライブ配信、オンライン開催(Zoom利用)の3パターンで開催した。また1週間後に録画版をTKUポータルに配信することで、多くの学生の視聴があった。講座参加者数1,078名、録画講座再生回数2,047件、合計3,125件(2022年1月末現在)(2020年度5,526件) ◆実施講座169回(録画講座含む)(2020年度104回)、講座アンケート回収率73.6%(2020年度52%)、満足度回答「はい」及び「大体」の合計100%(2020年度100%)。 ◆学生による学生のためのピアサポートを意識して、学生によるランチタイム講座を5講座開催し、多くの学生が参加した。内4講座はCSCを受講し、難関資格を取得した学生によるもので、CSC講座の受講者獲得も視野に入れた。 ◆緊急事態宣言下において、英語学習カウンセリングが減少したため、昼休み(15分～30分)に、英語学習アドバイザーによるオンライン(Zoom利用)「英会話サロン」、1日5単語を学ぶ「TOEICミニ単語講座」を複数回開催し、その後の英語相談につながった。 ◆夏季休暇期間中に学生が学内施設を利用できるイベントを開催した。 ①「TOEIC IPスコアレポートの見方」2日程 ②「夏休み 英語学習 Study with me」4日程 ③「1、2年生対象センパイが教えるこんなに便利で使える学内施設&交流会」 ④「簡単! 楽しい! ハーパーリウムを作ろう!」 ◆英語学習アドバイザーによる講座は、コミュニケーション学部1年生の「英語コミュニケーションI・II」(授業)の加点となる対象講座とし、多くのコミュニケーション学部1年生が参加した。 ◆ゼミ選択の参考になるように、ゼミナール連合会と協力し、学習センター内にゼミポスター展示を行った。また6号館1階のデジタルサイネージでゼミ連によるメッセージを動画配信した。 ◆要支援学生を含む学生支援の一環として実施している「学生支援・学習支援研修会」の第5回を研修委員会と共催し、夏季職員研修の一環として2021年9月7日(火)に対面、オンライン(Zoom利用)にて開催した。「つながりで支援コミュニケーションカアップ研修」諸富祥彦明治大学教授、参加者26名 <②2021年度の取り組み後の問題点(課題)> ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止により、2020年度はZoomを利用したWEB講座を実施し、アンケートはGoogleフォームを利用した。アンケート提出後に退出するよう呼びかけたが、Zoomは自由に出入りができるため、アンケート回収が難しく、回収率はコロナ禍以前を大きく下回っている。 ◆利用学生や教員運営委員及び英語学習アドバイザーから、学生の学習支援ニーズに関して日頃から意識して情報収集を行う必要がある。</p>	A	<p>◆各講座のアンケート【大量であるため学習センター保管】 ◆「学習センターイベント報告(2021年度)」【資料2-1、2-2】、「学習センターイベント報告(2020年度)」【参考】前年度データ】【資料2-3】 ◆KHACHIRO文庫貸出簿【個人情報を含むためデータにて学習センター保管】</p>	<p>◆2020年度の所見に記載したとおり、定期的な点検・評価の観点からは、「1年間の学習センターの活動」などは、学習センター運営委員会の上位の会議体もしくは、関連する別会議体への報告し、意見をもらう体制を確立してください。</p>

2021年度 自己点検・評価シート

基準11 教学ビジョン「10年後を見据えた新構想」

*各組織における新たな目標または、「2020年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2020年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2021年度期首時点)	①2021年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2021年度の取り組みとその成果 ②2021年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会所見 (改善・向上への取り組み)
<p>●第2次中期計画 ○分野別中期計画で掲げられている ④ 1. 教学-(4) 学生支援 に対する取り組みが適切に行われているか。</p>	<p>①現状説明 ◆学習センターでは、聴覚障がいのある学生のためのノートテイクの配置とサポートを行っている。2021年度は、対象学生の履修授業に対してUDトークアプリを利用した授業支援および指定席を設けて学習センターのノートパソコンを利用した授業支援を行っている。 ◆学習センターの窓口は、学内の「なんでも相談窓口」として、外国人留学生を含む、学部学生からの各種相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、対面、メール、電話での相談を学生が選択する形で実施している。 ◆学習センターでは、専任教員相談員10人が当番制で、外国人留学生を含む、学部学生からの学習相談に対応している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、昨年度に引き続き、対面相談とZoomを利用したWEB学習相談を学生が選択する形で実施している。 ◆学習センターは、学生時代に身に付けるべき基礎力や学習技能等を紹介した初年次用教材を作成し、新入生全員に配付している。 ◆教学支援部としての図書館と協力体制をとり、ランチタイム講座のコラボ企画を開催し、新たな利用者拡大を図る。</p> <p>②長所・特色 ◆学習センターは、静かに自習できるスペースのほか、会話のできる学習スペースを提供しており、外国人留学生とその学習チューター(本学学部生)の相談にも活用されている。</p> <p>③問題点 ◆2021年度は対象学生が軽度の障害のためノートテイクは必要ないが、必要になった場合には、ノートテイクの人材不足により、理想的な配置(各科目3人)が困難な場合がある。 ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止による授業形態にあわせた支援方法の検討が必要になる。</p>	<p>①2021年度以降の達成目標 (a)情報保障の必要な授業に対してUDトークアプリを利用した授業支援がスムーズに行えるよう、学務課や情報システム課と連携しながら行う。 (b)初年次生用教材「TKUベーシックカブック」を改訂する。</p> <p>②達成度を測るための客観的な指標 (a)情報保障の必要な対象学生に対し遅延なく授業に参加できるように準備し、支援する。 (b)2022年度及び2023年度新入生用の「TKUベーシックカブック」を改訂し、発行する。</p>	<p><①2021年度の取り組みとその成果> ◆聴覚障がい学生支援 4月に入学した聴覚障がい学生の障がいの程度が軽いため、情報保障の必要な授業に対して音声認識アプリを使用できる教室内の環境整備、自習利用として学習センターの環境整備を整え、授業支援を行っている。 ◆オンライン授業でのストレス解消に役立つ講座として、「眠りのためのリラックス法」、「オンライン疲れさんのためのリラックス法」、「アートセラピー体験会」を実施した。 ◆初年次生用教材「TKUベーシックカブック」を改訂した。(2022年度・2023年度入学生へ配布) ◆英語学習アドバイザーによる講座では、新型コロナウイルス感染症対策防止により、オンラインの状況下にあっても学生同士が繋がることを意図し、コトパティオと連携したランチタイム講座を開催した。「ハッピークリスマス!アメリカンポップスで英語を学ぶ」</p> <p><②2021年度の取り組み後の問題点(課題)> 今年度は聴覚障がい学生が1名で障がいの程度も軽いため、音声認識アプリ「UDトーク」を使用した支援で対応したが、対象者が増えた場合は、対応を検討する必要がある。今後、音声認識ソフト等の開発が進むと予想される中、学生によるノートテイク支援の在り方を検討する必要がある。 2020年度、2021年度は学生によるノートテイク養成のための講習(講座)を開催していない。今後、対面授業が全面的に再開され、障がい程度が重い学生が入学した場合には、学生によるノートテイクを行うのか、あるいは音声認識ソフト等を利用する場合でも、音声認識ソフトの内容が正しく認識されているか文字間違いを修正する支援者が必要になると予想され、予算は必要になるとと思われる。</p>	<p>A</p>	<p>◆「学習センターイベント報告(2021年度)」【資料2】</p>	<p>○ 2020年度の事務組織再編により、学習センターには、教学支援の側面も求められています。単年度の事業計画とも密接に連携させながら、改善・向上に努めてください。</p>